

=====
一般社団法人日本アセットマネジメント協会
J A A Mメールマガジン (2023年度第16号)
2024.2.7発行
=====

今回のメールマガジンでは、被災地域でのインフラ調査、現地状況の変化に応じた対応、支援などについて、第4班の日本工営株式会社から引き継いで頂いたパシフィックコンサルタンツ株式会社 インフラマネジメント部インフラ経営室 福澤伸彦様から報告をいただきます。なお、パシフィックコンサルタンツ株式会社には3名体制で1月21日～24日の間、現地での様々な対応をしていただきました。

パシフィックコンサルタンツ株式会社 インフラマネジメント部インフラ経営室 福澤伸彦

第4班の日本工営様に続き、第5班として1月21日から1月24日の間に能登町の被災状況の確認を実施しました。現地調査の対象は橋長30m以上の橋梁及びその周辺の町道（1級及び2級以外のその他町道）とし、記録方法は前班までと同様にSOCOCAを活用し、損傷写真、対策要否の判定、コメントを記録しました。

橋梁は地震による損傷が懸念される箇所として、橋脚のひび割れや傾き、支承のズレや脱落、上部工と下部工の相対変位、遊間の異常の有無に特に着目しました。幸いにして天候にも恵まれ、桁下まで降り、比較的近接して損傷状況の確認をすることができました。

橋梁は全体として落橋に繋がるような深刻な損傷は見られなかったものの、橋台背面の土工が沈下して段差が生じているものが非常に多く見られ、段差擦り付けによる応急措置が施されており、一部の橋梁では添架物の水道管の破損や土工部擁壁のズレが見られました。

また九里川尻川の河口部付近は津波による被害があったと想定され、斜張橋型式の人道橋は支承の脱落や防護柵の破損が顕著に見られ、樋管の浮き上がりや護岸上に乗用車が流された跡、辺り一面に土砂が堆積しているなど、甚大な被害を目の当たりにしました。

町内全体に散見される事象として、液状化や地すべりによると想定される大規模な舗装の陥没、亀裂が挙げられます。1級町道や2級町道のような主要な町道は概ね損傷箇所の把握、交通規制等の対応は完了しているようですが、生活道路のようなその他の町道の損傷は、役場職員の方々、国交省テックフォース、我々のようなコンサルタントがまだ確認できていない箇所が多く、ロードコーンによる通行規制ができていない箇所が多く見られました。そのような箇所の一部は住民の方が自主的に注意喚起をしていると想定される箇所が見受けられました。

能登町では管理道路や橋梁の諸元がパソコンの地図上で閲覧、検索できるシステムを導入しており、現地調査計画はスムーズに立案することができました。一方でテックフォースやコンサルタント、住民の方々が保有している情報を一元管理できるようなしくみがあれば、より効率的・効果的であると実感しました。

私たちの宿泊場所は断水、停電の状態でしたが、滞在中に電気が復旧し、一部のスーパーでは販売を再開しており、少しずつではありますが地震前の生活に戻りつつある半面、水道の復旧は2月末とまだまだ不自由な状況です。そのようななか、私たちが現地調査をしている最中、明るく挨拶をしてくださる町民の方もおり、我々の励みになるとともに、被災地の方々の強さを実感し、一日も早い復興を願わずにはいられません。